

CONTENTS ◆早春のつどいレポート1 ◆おくさわ今と昔 ◆早春のつどいレポート2
◆グリーンサムのお庭拝見 ◆活動報告 ◆会からのお知らせ

早春のつどいレポート1

奥沢コンサート ♪ ♪



2月7日に奥沢東地区会館で開かれた早春のつどいは、第1部の湯浅浩史さんの興味深いお話に続き、第2部はジャズコンサートでした。バンド演奏に迎えられて、ボーカル中島夕見さん(奥沢2丁目在住)の登場で始まりです。

ニューヨークでの仕事が主で、この会の事を知らなかったと話される中島さんですが、最近は奥沢音楽祭にも参加され地元との繋がりが出来たとのこと。最初の曲は“New York New York”でした。次は“Smile”、チャップリンの曲を情感を込めて歌われました。

続いて日本でも江利チエミで大ヒットした“Tennessee Waltz” 当時を思い出しながら、口ずさんでいるうちにちょっと涙目になってしまいました。“My Favorite Things” は J R 東海のコマーシャルに使われたお馴染の曲。次はこの会のために新たに編曲したという喜納昌吉の“花”。10年振りに練習なさったそうです

が、沖縄調のメロディに乗った歌唱は心に染みみました。意外にも次の曲は美空ひばりの名曲“リンゴ追分”で伴奏も三味線風に、歌い上げました。

“Over The Rainbow” は私達にはオズの魔法使いの映画で知られた曲(曲中に“What A Wonderful World”をアレンジ)ジュディガーランドの姿に重ねながら、曲にどっぷりと浸っていました。最後に“上を向いて歩こう”みんな元気を出してがんばれるようにと中島さんの言葉どおり、手拍子も冴えて元気よく歌い、楽しい演奏を終わりました。

騒音の心配から極力音を抑えた演奏をお願いしたのですが、迫力ある巧みな歌唱が選曲のすばらしさと共にジャズの楽しさを十分に味わわせて下さったようで、お帰りになる皆さんの顔が晴々と明るく見えました。

ジャズコンサートがとても良かった楽しかった!! “テネシーワルツ” “上を向いて歩こう” は圧巻でした——というお便りも頂きました。(柳島)



おくさわ今と昔

このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方と新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、このまちにちなんだエピソードを語っていただきます。

思い出

奥沢二丁目 松木維宇

先日友人の母が亡くなり、その葬儀で大学の同期生に久し振りに会った。別の友人に紹介してもらったが、街中で出会っていたら分からなかったと言われてしまった。お互い様だ。

そう大学を卒業して40年余り、そして我が町「奥沢」に住んで早や60年近く経ってしまった。思えば小学校2年で疎開先の山形より移り住んだ時は周りは田んぼ、当然道路は舗装無しの砂利道、亡き母から聞いたが九品仏川も当時緑道ではなく、むき出しの川だったため溢れたこともあった様だ。

今この投稿文を書きながら数10年前の思い出が走馬灯の様に浮かんで消えてゆく。

兄と一緒にいった等々力溪谷や宝来公園でのザリガニ捕り、多摩川での魚釣り、家で飼っていたシェパード犬を連れて宝来公園への品評会参加、八幡小学校の帰りに奥沢駅前の交番でトイレを借りたこと（無理に我慢しなかったからか、帰宅してから何故か母親から誉められた）、そして友人宅で夕食にすき焼きをご馳走になったが、戦後まもなくのことでもありあまり家で食べたこともなかったのに何時も食べている様な顔をしたこと、等々。そういえば当時の同級生、近所の仲間、皆今は如何しているのだろうか？ 一部の人を除いてバラバラになってしまった。思い出すとちょっと寂しい。またその時にどこの家でも使用していた蚊帳、卓袱台、旧式のあんか、火鉢、煙管、旧式の足踏みミシンや音のうるさい扇風機――、そうだこのガラクタの類はみな山形の家持っていったんだ。この都会ではあまり見かけなくなった草花も田舎の庭では立派に花を咲かせている。土とか広さ、日当たり等にもよるのだろうがたくましく育っている。この前雑草に近い物も含め花の種類を数えたら、30種類近くもあった。奥沢にある様な立派なケヤキ、桜、百日紅などはないが早速山形に帰って昔の思い出に浸ろう。

でも原点はこの「奥沢」、愛すべきは「奥沢」、永遠なれ！！

●このシリーズへの御投稿をお待ちしております。お話を聞かせ下さる方にはうかがいに参ります。

反省・愛情・感謝をこめて

奥沢二丁目 奥山 由香

緑や花がキレイだ！という人は、あまり多くはいないと思います。ただ、育てるのが苦手な人は、私を含め多くいらっしゃると思います。

この春で奥沢に住み5年。買い物がてら町を歩き、ふと目にする家の庭先はとてもキレイ。緑と白花のみで統一されていたり、同じ種類の花でまとめて・・・など大変センスの良い、个性的でおしゃれなガーデンに沢山出会えます。

昔から花好きな私ですが、なぜか花屋の店先で美しく咲いている鉢植えを見かけると一目惚れし、即購入。ことごとく弱り、育たない。夫にも「もうやめたら。」と言われ、方向転換。花がダメなら、緑で勝負！！と。今は小さなベランダですが、ユーカリやオリーブ達と仲良くしております。

主人も、お花が好きで大きな鉢で戴いた蘭が「1回では可哀想だ」と株分けし、1鉢が2鉢、2鉢が4鉢と、一時は20鉢くらいの数となり、狭い家中が一杯になってしまったこともあり、みごとに毎年、優美な花が咲き誇り、豊かな香りで私達を和ませてくれました。とても大切に育てていました。

そんな蘭達も私によって「今日はお天気だから外で水やりをしましょう。」と真夏の太陽、ギラギラの下で長時間放置され、葉が真っ黒焦げ状態。あれ？主人は泣きましたそれ以来、蘭を育てなくなりました。

私はとても反省し、残された蘭達を、今、頑張っけて育てています。この春、数少ない鉢の中でたった1つだけ花芽が出てきたのです。花も人間と同じ、愛情をもって育てれば答えてくれるのですね。

又、毎朝学校へ行く娘達に「おはよう」と見守り、お声を掛けて下さるご近所の方々から娘達も自然とあいさつが身につき、ものおじせずに大きな声で元気に挨拶の出来る子に育ってくれた事、とても感謝しております。娘達も少し大きくなり、私もこの町で何かお手伝い出来たらなあーと考え、昨年より子育て支援に参加させて頂いております。この小さな子供達に、私ができる事で、住み心地の良い町作りの為、何か伝えていけたら良いなあーと思っています。

早春のつどいレポート2

お話「花と人・花と歴史のかかわり」



湯浅さんのプロフィール

今回は東京農業大学教授である湯浅浩史さんから、花と人や歴史にまつわるお話をお聞きしました。先生の植物に対する研究は幅広いもので、遺伝子レベルの研究から、植物環境、更には人と植物に関する文化人類学に及んでいます。厳しい環境下における植物の研究は人類にとって必須とのお考えからマダガスカル島（バオバブの木が有名）に数十回も出張し研究されています。皆さんは朝日新聞に連載された「花おりおり」をご存知と思いますが、先生は5年に亘って連載を続けられました。

花は文化のバロメータ

花は国の文化の高さを示すバロメータで、「花おりおり」のように一般紙の第一面に花の記事を載せている国は日本だけだそうです。ところが最近の学校教育で花を名前付きで教えることはなくなっており、最も多く教えているのは幼稚園だけと嘆いておられました。

世田谷と花

野草はだんだん見られなくなってきたが、砧緑地や馬事公苑には、ヒトリシズカやギンラン、モジズリ（捻り花）のように蘭が多い。伝説で有名なサギソウも蘭の仲間。

昭和天皇と世田谷の花のエピソードを一つ紹介。昭和天皇の車が三軒茶屋を通過したとき、見慣れない花が陛下の目に留まった、あの花は何かと侍従に問う、なかなか分らず最後は先生の所に問い合わせが来て、「セダム」であることが分った。今ではどこにでもあるが当時は殆ど無く、これが日本で3番目の発見であったとか。多忙の中、車中からの一瞬の観察で気が付かれた陛下の植物

への愛着が感じられた。

花と歴史

日中戦争時、山口、黒田という薬学者が南京の紫金城にショカツサイが一面に咲いているのを見て感激、日本に持ち帰り世田谷で育てたのが始め。ショカツとは蜀の諸葛孔明のこと、兵に種を播かせ、野菜を取った、実は「カブ」のことで食料確保に適した植物であった。全く対照的なのが、日露戦争でロシアの将軍ステッセルが、兵糧が豊かでも、兵の指揮低下で白旗を掲げ降参した話である。実はビタミンC不足で壊血病になったのが原因。乗り込んでみると、水と大豆がある、彼らは「モヤシ」を栽培することを知らなかったのである。

最後は名前の由来についていくつか

「タンポポ」という語はいつからでてきたか。万葉集や源氏には出てない。江戸になって「ツツミグサ」といわれるようになった。子供の鼓遊びの音は「タンポン」という音らしい。タンポポの茎の両端に刃物を入れると茎の表面が表側に反り鼓のような形になることから、「ツツミグサ」→「タンポン」→「タンポポ」に訛ったらしい。

花の漢字の由来について一言、「櫻」貝が二つと女は二階の女が木（気）にかかるでなく、さくらんぼができる木という意味である。また「梅」のつくりは前髪の下に母と書く、即ち出産の時に酸っぱい「梅の実」が必要なことに由来する。

訥々とした口調で、花とその人間学的なお話が、清水のように湧き出てくるところは、先生の限りない植物への愛情を感じられました。（鈴木）



グリーンサムのお庭拝見 Vol.31

日本の春の恒例・桜祭りが秋田県まで北上した4月中旬頃、奥沢8-11の福川さんを訪ねました。車庫の両側にはクリスマスローズが3株程、その根元には種が零れて沢山の芽が出ています。玄関に登る石段脇に、御主人の丹精で増えた西洋桜草が20株近く植えられています。玄関横の庭木戸に入ると3m近い夏椿、“手入れが良くないと枯れやすい”と話すのは同行の我が会の庭師長瀬さんです。草1本無い手入れの届いた広い芝生を、多少前後しながら三重に囲む木々。一番外側(塀寄り)に檜・もち・山茶花・珊瑚樹・椎・金木犀等が聳え、その間から咲き出した八重山吹・小手毬が見え隠れしています。北西の端には夏蜜柑。毎年100個近く実を付け、マーマレードの材料になるそうです。

それらの内側には三葉つつじ・毎年沢山実が成る樹齢70年余の梅・山桃・つつじ・花桃。更に内側の列に20

株を超えるアガパンサス・30株以上の都忘れ・チューリップ・20本近く株分けされた西洋桜草。隣には70年は越えた黒松が2本・手前に石灯籠そして高さ50m程に整えられたつつじが2m余続き、20株程のアガパンサス・銀蘭水仙・えびね・水仙・ビオラ・西洋桜草。縁先には奥沢の“思い出”の種から育ったビオラが沢山増えていました。木戸の方に向かってバイモユリ・福寿草・いちはつ。東南の菜園には春蘭と小松菜が残り僅かに、チンゲン菜の本菜が出揃ったところです。その南は、夏野菜を植えるために肥料を漉き込んだところだそうです。

御主人の庭作りの素晴らしいセンスを基に奥様のまめなお手入れ、長瀬さんの月1回の巡回。これらのハーモニーが作り出す美しさで見事さが、なんとも云えない爽やかな心地良いお庭を作り出していました。(立花)

活動報告

●4月11日と20日に主に奥沢2丁目の道路沿いに置かせて頂いているシンボルフラワーのチェリーセージの剪定、土換え、施肥を行いました。この作業は、結構重労働ですが、「まちづくり」が実感できる活動です。

●かねてより世田谷区の新規の「NPO提案型協働事業」へ応募していましたが、NPO玉川まちづくりハウスと協同して実施することで選定されました。区が推進する「世田谷みどり33」には、一般住宅地のみどりに関する項目が少ないため、当会が実績を積んできた住宅地のみどりを守り増やし育てるための実践的ノウハウやアイデアを紹介する計画です。具体的な計画は区との正式契約が成立後実施体制に入ります。

●NPO活動の本格化に当たって：昨年の総会でも会員の方にご説明、了承を頂いたように、本会の考え方と活動はNPOになっても全く変わりません。法人化によって会の管理運営の責任は重くなりました。会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

会からのお知らせ

●ミニ園遊会—5月16日(土)11時30分より、奥沢2-3-15のいつもの空地をお借りして開催します。どうぞお気軽にお出かけ下さい。皆様のお越しをお待ち申し上げます。

●NPO法人土とみどりを守る会総会—園遊会に先立って11時から開催します。今回からNPO法人の規定により定足数が必要となったため、**会員の皆様に出欠の葉書をお届けしました。総会を欠席される方は、委任状に捺印をお忘れなく御返送下さい。16日雨の時は17日に開催、又雨天の場合は奥沢東地区会館で行います。**

土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢 2-19-9 長瀬雅義 5729-0126

世田谷区奥沢 2-41-2 柳島尚子 3718-8558

(編集後記)

3月7日の午後、3丁目18の神部邸の桜を見せて頂きました。折しも濃いピンクのおかめ桜は満開で、その華やかな美しさは幸せに満ちた花嫁の姿のように輝いていました。10年程前にお出入りの植木屋さんが、奥さんの育てた苗木を持って来て植えてくれたとのこと。今は緑青色の屋根を越えてすくすくと伸び 道を通る人にも観賞できる高さになっています。庭の東側に立って西を眺めると、手入れの行き届いた緑の松を前景に青い空と濃いピンクの桜がかもし出す美しさ思わず溜息が出るようで、別世界に遊ぶような気分でした。私の愛してやまない「奥沢」の宝物を又一个見つけました。(Y)